

第21回「秋田県内企業の景気動向調査」結果

(平成28年8月調査)

～ 景況感は2期ぶりに悪化。足踏み状態が続いている ～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲15.1(前回調査比 4.1 ポイント下落)と2期ぶりに悪化した。「各種D I 値(前年同期比)」をみると、「人員人手」が19.0(同8.9ポイント上昇)と改善し不足感を強めた一方、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の3項目はいずれも悪化となった。
- **業種別**に「自社の業況D I 値(前年同期比)」をみると、建設業は2.0(前回調査比 8.2 ポイント上昇)と2期連続で改善し、7期ぶりに「良い」超となった。一方で、製造業は▲16.5(同 4.3 ポイント下落)、卸・小売業は▲29.6(同 11.9 ポイント下落)、サービス業は▲14.4(同 6.8 ポイント下落)と、建設業以外の3業種ではいずれも悪化となった。
- **地域別**に「自社の業況D I 値(前年同期比)」をみると、県北が▲31.1(前回調査比 9.3 ポイント下落)、中央が▲12.4(同 3.3 ポイント下落)、県南が▲9.9(同 1.8 ポイント下落)と、すべての地域で悪化した。
- **先行き見通し**は、「自社の業況D I 値」が▲15.5(今回調査比 0.4 ポイント下落)と、横ばい圏内での推移が見込まれている。

【 特別調査 】

- **設備投資動向**について尋ねたところ、27年度中に設備投資を「実施する(した)」と回答した企業の割合は、47.0%(昨年度比 3.3 ポイント上昇)と、2年連続で上昇した。一方、「実施しない」と回答した企業の割合は 39.4%(同 4.3 ポイント減少)となった。
設備投資を「実施する(した)」と回答した企業に投資額を尋ねたところ、1社あたり平均投資額(予定含む)は 6,210 万円で、昨年度の調査時点と比べて 1,140 万円減少した。

平成28年8月

株式会社フィデア総合研究所

目次

I. 県内企業の業況.....	1
1. 概況.....	1
2. 業種別の動向.....	2
(1)業種別の概況.....	2
(2)業種別DI値の動向.....	3
① 建設業.....	3
② 製造業.....	4
③ 卸・小売業.....	5
④ サービス業.....	6
3. 地域別の動向.....	7
(1)地域別の概況.....	7
(2)地域別DI値の動向.....	8
① 県北.....	8
② 中央.....	9
③ 県南.....	10
II. 景気の天気予報図.....	11
III. 特別調査.....	12
1. 設備投資動向.....	12
2. 設備投資金額.....	14
3. 設備投資目的.....	15
<参考資料Ⅰ：業種別・地域別回答率>.....	17
<参考資料Ⅱ：調査の概要>.....	17

I. 県内企業の業況

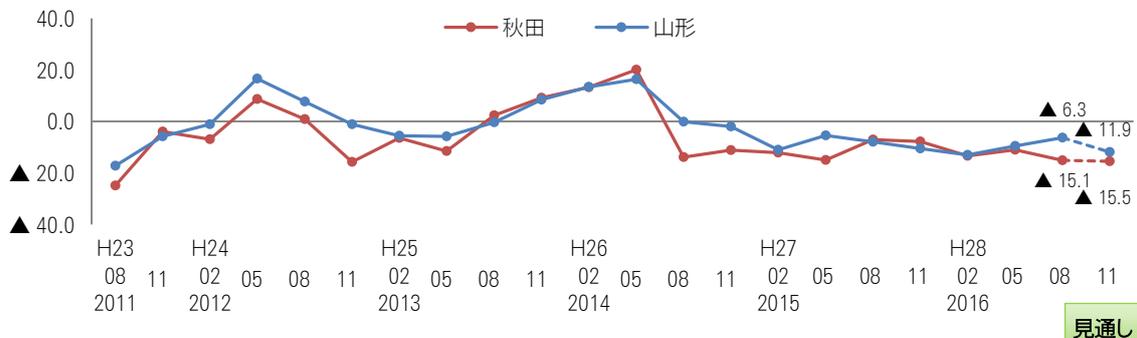
1. 概況

～ 景況感は2期ぶりに悪化。足踏み状態が続いている ～

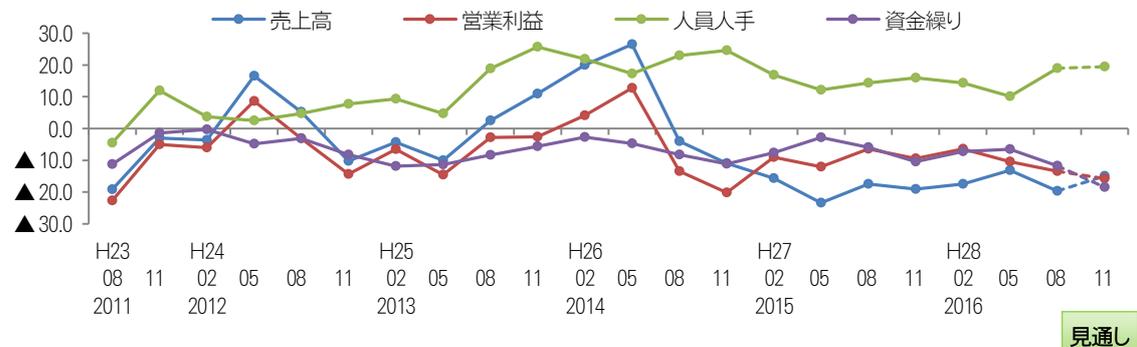
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲15.1(前回調査比 4.1ポイント下落)と2期ぶりに悪化した。「各種D I 値(前年同期比)」をみると、「人員人手」が19.0(同8.9ポイント上昇)と改善し不足感を強めた一方、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の3項目はいずれも悪化となった。

先行き見通しは、「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲15.5(今回調査比 0.4ポイント下落)と、横ばい圏内での推移が見込まれている。

図表 1 全業種「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 2 全業種「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

全業種 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 27.08 (n=423)	▲7.1	7.9	▲12.8	▲17.5	▲6.4	14.4	▲5.9
H 27.11 (n=424)	▲7.8	▲0.7	▲11.1	▲19.1	▲9.4	16.0	▲10.4
H 28.02 (n=417)	▲13.4	▲5.6	▲17.5	▲17.5	▲6.4	14.4	▲7.2
H 28.05 (n=442)	▲11.0	2.4	▲28.3	▲13.1	▲10.4	10.1	▲6.5
H 28.08 (n=411)	▲15.1	(▲4.1)	▲17.9	▲19.7	▲13.4	19.0	▲11.7
前回調査比	-	-	-	(▲6.6)	(▲3.0)	(8.9)	(▲5.2)
先行き見通し	▲15.5	-	-	▲14.9	▲15.8	19.5	▲18.5
今回調査比	(▲0.4)	-	-	(4.8)	(▲2.4)	(0.5)	(▲6.8)

※ 「売上高」D I 値は、建設業の「完成工事高」を含んだ値。

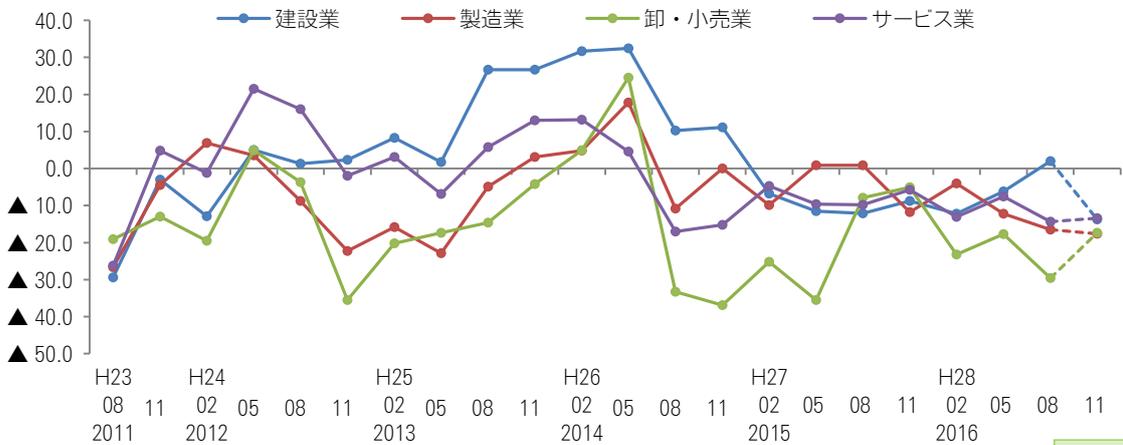
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、建設業は2.0(前回調査比8.2ポイント上昇)と2期連続で改善し、7期ぶりに「良い」超となった。一方で、製造業は▲16.5(同4.3ポイント下落)、卸・小売業は▲29.6(同11.9ポイント下落)、サービス業は▲14.4(同6.8ポイント下落)と、建設業以外の3業種ではいずれも悪化となった。

業況の先行き見通しは、建設業で大幅な悪化が見込まれている一方、今回大きく悪化した卸・小売業では改善が見込まれている。

図表 3 業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



見通し

前年同期比の自社業況DI値

業種別 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 27.08 (n=423)	▲7.1	▲12.1	0.9	▲7.9	▲9.8
H 27.11 (n=424)	▲7.8	▲8.8	▲11.8	▲5.1	▲5.8
H 28.02 (n=417)	▲13.4	▲12.2	▲4.0	▲23.2	▲13.1
H 28.05 (n=442)	▲11.0	▲6.2	▲12.2	▲17.7	▲7.6
H 28.08 (n=411)	▲15.1	2.0	▲16.5	▲29.6	▲14.4
前回調査比	(▲4.1)	(8.2)	(▲4.3)	(▲11.9)	(▲6.8)
先行き見通し	▲15.5	▲13.8	▲17.6	▲17.4	▲13.4
今回調査比	(▲0.4)	(▲15.8)	(▲1.1)	(12.2)	(1.0)

(2)業種別D I 値の動向

① 建設業

「自社の業況D I 値(前年同期比)」は2.0(前回調査比 8.2 ポイント上昇)と2期連続で改善し、7期ぶりに「良い」超となった。「各種D I 値(前年同期比)」をみると、「人員人手」はプラス幅を拡大し不足感が強まった一方、「完成工事高」「営業利益」「資金繰り」は悪化となった。一般住宅は増加傾向にあるものの、公共工事は小規模の案件が多く金額ベースでは例年に比べ低下するなど、総じて見れば「完成工事高」「手持工事高」の停滞が続いている。

先行き見通しは、「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲13.8(今回調査比 15.8 ポイント下落)と大幅な悪化が見込まれている。

図表 4 建設業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 5 建設業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

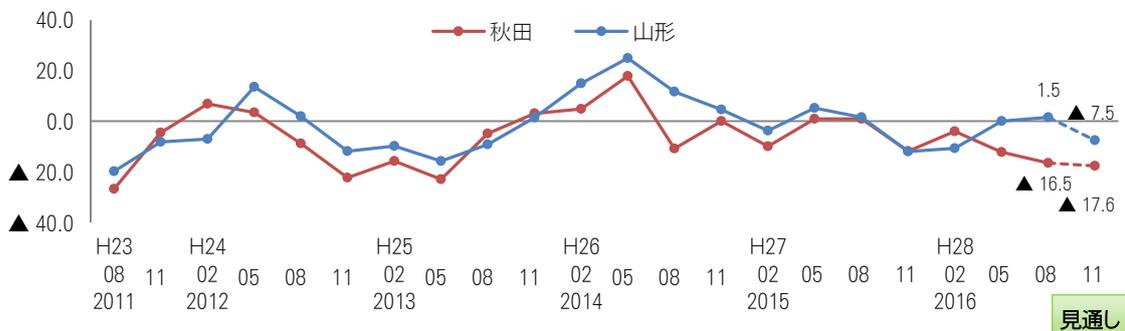
建設業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
H27.08 (n=99)	▲12.1	▲0.6	▲23.0	▲18.2	▲15.2	▲14.2	18.2	11.1
H27.11 (n=102)	▲8.8	3.3	▲7.1	▲13.7	▲18.7	▲14.7	24.5	▲8.8
H28.02 (n=106)	▲12.2	▲3.4	▲26.5	▲17.0	▲10.4	▲27.4	13.2	▲1.9
H28.05 (n=113)	▲6.2	6.0	▲28.3	▲4.5	▲6.2	▲17.7	7.9	0.9
H28.08 (n=102)	2.0	(8.2)	▲29.2	▲12.8	▲11.8	▲17.7	22.6	▲3.0
前回調査比	-	-	-	(▲8.3)	(▲5.6)	(0.0)	(14.7)	(▲3.9)
先行き見通し	▲13.8	-	-	▲17.6	▲23.5	▲12.8	24.5	▲14.7
今回調査比	(▲15.8)	-	-	(▲4.8)	(▲11.7)	(4.9)	(1.9)	(▲11.7)

② 製造業

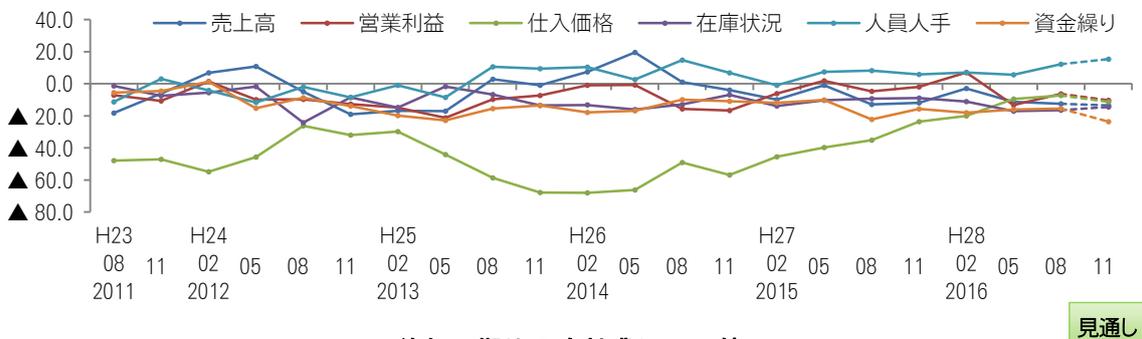
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は▲16.5(前回調査比 4.3 ポイント下落)と2期連続で悪化した。各種D I 値(前年同期比)でみると、「売上高」で小幅な減少となった一方、他の5項目はいずれも改善した。「人員人手」は12.3(同 6.7 ポイント上昇)と不足感が強まっている。円高の影響により原材料価格の負担感は和らいでいるものの、総じて景気の回復感は乏しい状況が続いており、各社のコメントをみると、酒造を除く食品関連や建設関連などでは、需要の停滞感がうかがえた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲17.6(今回調査比 1.1 ポイント下落)と、ほぼ横ばいで推移するものと見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 7 製造業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

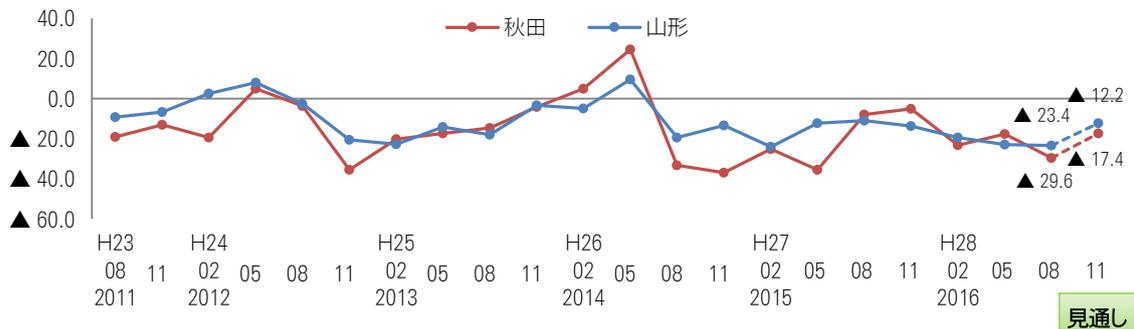
製造業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H27.08(n=108)	0.9	▲0.0	▲1.8	▲12.9	▲4.7	▲35.1	▲9.2	8.3	▲22.2
H27.11(n=102)	▲11.8	▲12.7	▲12.0	▲11.8	▲2.0	▲23.6	▲8.8	5.9	▲15.7
H28.02(n=100)	▲4.0	7.8	▲7.9	▲3.0	7.0	▲20.0	▲11.0	7.0	▲18.0
H28.05(n=106)	▲12.2	▲8.2	▲27.0	▲11.3	▲13.2	▲9.4	▲17.0	5.6	▲16.0
H28.08(n=97)	▲16.5	(▲4.3)	▲12.3	▲12.4	▲6.2	▲7.2	▲16.5	12.3	▲15.5
前回調査比	-	-	-	(▲1.1)	(7.0)	(2.2)	(0.5)	(6.7)	(0.5)
先行き見通し	▲17.6	-	-	▲13.4	▲10.3	▲11.3	▲14.4	15.4	▲23.7
今回調査比	(▲1.1)	-	-	(▲1.0)	(▲4.1)	(▲4.1)	(2.1)	(3.1)	(▲8.2)

③ 卸・小売業

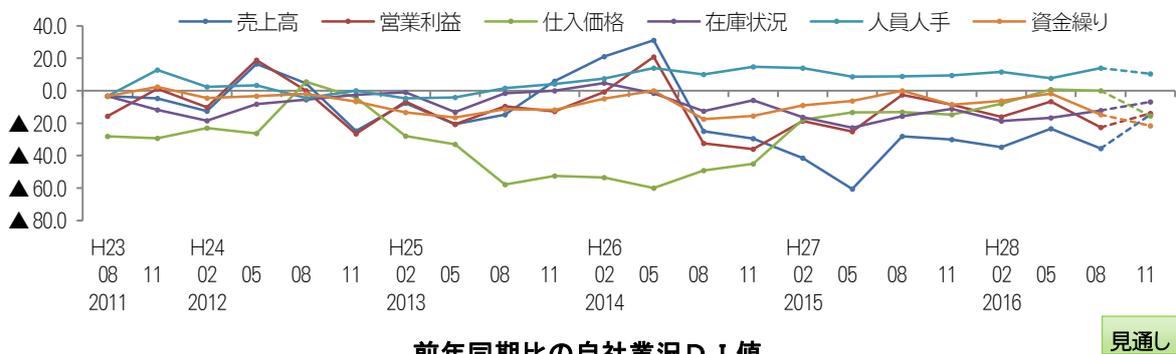
「自社の業況DI値(前年同期比)」は▲29.6(前回調査比 11.9 ポイント下落)と2期ぶりに悪化した。「各種DI値(前年同期比)」でみると、「在庫状況」「人員人手」が改善した一方、「売上高」や「営業利益」など他の4項目は悪化した。景気が依然足踏み状態にあり消費が低調にとどまるなか、総じて足元は停滞感が強まっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲17.4(今回調査比 12.2 上昇)と改善が見込まれている。「各種DI値(前年同期比)」では「売上高」で大幅な改善が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表 9 卸・小売業「各種DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

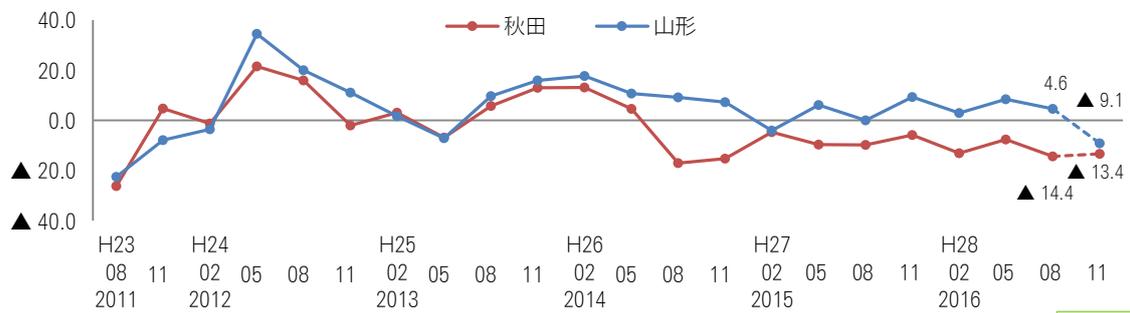
卸・小売業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り	
	前回調査比	前回調査予測							
H27.08 (n=114)	▲7.9	27.6	▲18.9	▲28.1	▲2.6	▲13.2	▲15.8	8.8	0.0
H27.11 (n=116)	▲5.1	2.8	▲15.8	▲30.1	▲8.6	▲14.7	▲11.3	9.5	▲8.6
H28.02 (n=112)	▲23.2	▲18.1	▲23.3	▲34.8	▲16.1	▲8.0	▲18.7	11.6	▲6.3
H28.05 (n=119)	▲17.7	5.5	▲32.1	▲23.5	▲6.7	0.8	▲16.8	7.6	▲1.7
H28.08 (n=115)	▲29.6	(▲11.9)	▲21.0	▲35.7	▲22.6	0.0	▲12.2	13.9	▲14.8
前回調査比	-	-	-	(▲12.2)	(▲15.9)	(▲0.8)	(4.6)	(6.3)	(▲13.1)
先行き見通し	▲17.4	-	-	▲14.8	▲14.0	▲15.6	▲6.9	10.5	▲21.7
今回調査比	(12.2)	-	-	(20.9)	(8.6)	(▲15.6)	(5.3)	(▲3.4)	(▲6.9)

④ サービス業

「自社の業況D I 値(前年同期比)」は▲14.4(前回調査比 6.8 ポイント下落)と2期ぶりに悪化した。「各種D I 値(前年同期比)」では、「営業利益」「人員人手」が改善した一方、「売上高」「資金繰り」は悪化した。各社のコメントをみると、運送業で物流量の減少などにより低調な様子がうかがえたほか、観光業、自動車整備業など多くの業界で停滞感がうかがわれた。

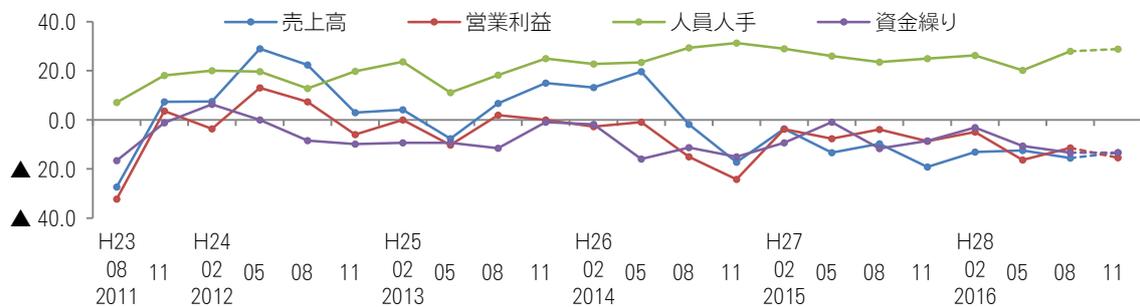
業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲13.4(今回調査比 1.0 ポイント上昇)と、小幅ながら改善が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



見通し

図表 11 サービス業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



見通し

前年同期比の自社業況D I 値

サービス業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H27.08(n=102)	▲ 9.8	▲ 0.2	▲ 7.7	▲ 9.8	▲ 3.9	23.5	▲ 11.7
H27.11(n=104)	▲ 5.8	4.0	▲ 8.8	▲ 19.2	▲ 8.7	25.0	▲ 8.6
H28.02(n=99)	▲ 13.1	▲ 7.3	▲ 11.5	▲ 13.1	▲ 5.0	26.3	▲ 3.1
H28.05(n=104)	▲ 7.6	5.5	▲ 25.2	▲ 12.5	▲ 16.3	20.2	▲ 10.6
H28.08(n=97)	▲ 14.4	(▲ 6.8)	▲ 7.7	▲ 15.5	▲ 11.4	27.9	▲ 13.4
前回調査比	-	-	-	(▲ 3.0)	(4.9)	(7.7)	(▲ 2.8)
先行き見通し	▲ 13.4	-	-	▲ 13.4	▲ 15.4	28.9	▲ 13.4
今回調査比	(1.0)	-	-	(2.1)	(▲ 4.0)	(1.0)	(0.0)

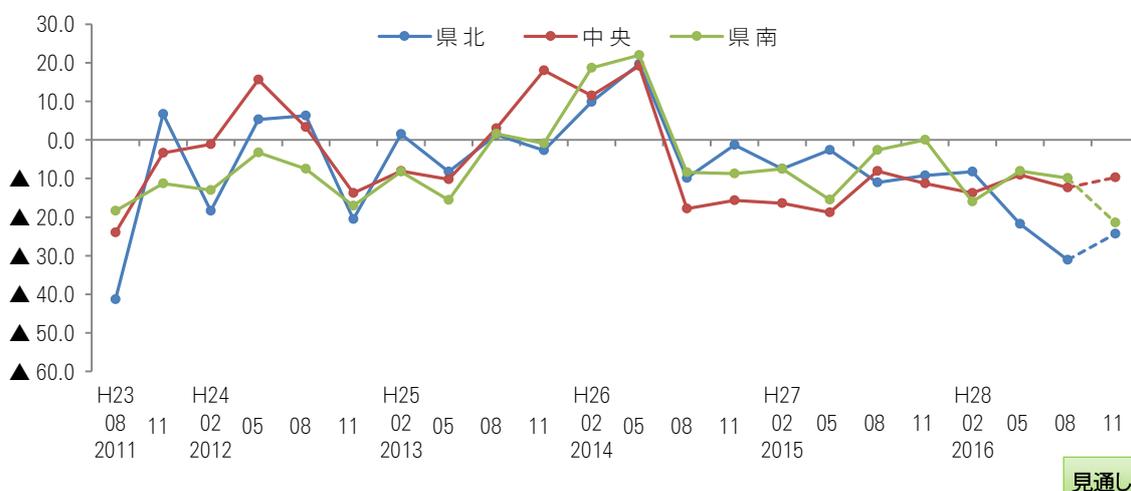
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、県北が▲31.1(前回調査比 9.3ポイント下落)、中央が▲12.4(同 3.3ポイント下落)、県南が▲9.9(同 1.8ポイント下落)と、すべての地域で悪化した。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、県北と中央では改善が見込まれる一方、県南では悪化の見通しとなっている。

図表 12 地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			
	全地域	県北	中央	県南
H 27.08 (n=423)	▲ 7.1	▲ 11.0	▲ 8.1	▲ 2.6
H 27.11 (n=424)	▲ 7.8	▲ 9.2	▲ 11.3	0.0
H 28.02 (n=417)	▲ 13.4	▲ 8.2	▲ 13.8	▲ 16.0
H 28.05 (n=442)	▲ 11.0	▲ 21.8	▲ 9.1	▲ 8.1
H 28.08 (n=411)	▲ 15.1	▲ 31.1	▲ 12.4	▲ 9.9
前回調査比	(▲ 4.1)	(▲ 9.3)	(▲ 3.3)	(▲ 1.8)
先行き見通し	▲ 15.5	▲ 24.3	▲ 9.7	▲ 21.4
今回調査比	(▲ 0.4)	(6.8)	(2.7)	(▲ 11.5)

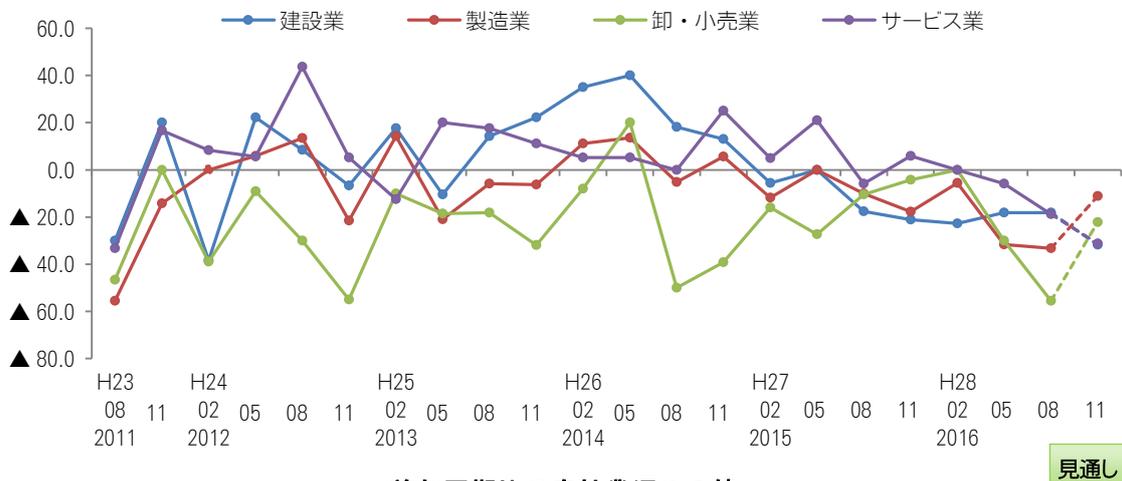
(2) 地域別D I 値の動向

① 県北

「自社の業況D I 値(前年同期比)」は▲31.1(前回調査比 9.3 ポイント下落)と2 気連続で悪化し、さらにマイナス幅を拡大した。業種別では、建設業は横ばいとなったものの、他の3 業種は悪化した。中でも卸・小売業は▲55.6(同25.6 ポイント下落)と特に悪化幅が大きくなっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲24.3(今回調査比 6.8 ポイント上昇)と改善が見込まれている。業種別では、建設業とサービス業で悪化が見込まれている一方、製造業と卸・小売業では大幅な改善の見通しとなっている。

図表 13 県北業種別「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

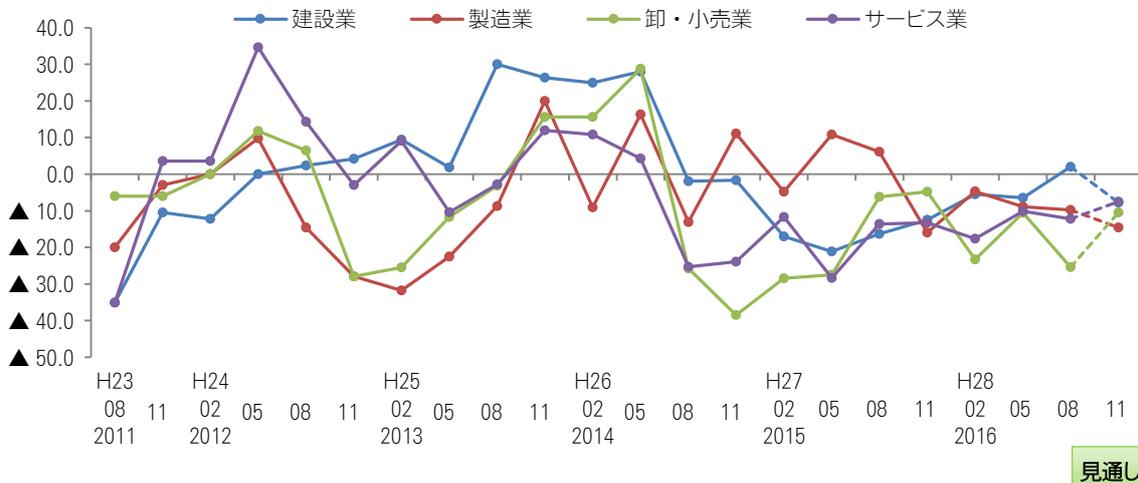
県北 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 27.08 (n=73)	▲ 11.0	▲ 17.6	▲ 10.0	▲ 10.5	▲ 5.9
H 27.11 (n=76)	▲ 9.2	▲ 21.1	▲ 17.7	▲ 4.3	5.9
H 28.02 (n=73)	▲ 8.2	▲ 22.8	▲ 5.6	0.0	0.0
H 28.05 (n=78)	▲ 21.8	▲ 18.2	▲ 31.6	▲ 30.0	▲ 5.9
H 28.08 (n=74)	▲ 31.1	▲ 18.2	▲ 33.3	▲ 55.6	▲ 18.8
前回調査比	(▲ 9.3)	(0.0)	(▲ 1.7)	(▲ 25.6)	(▲ 12.9)
先行き見通し	▲ 24.3	▲ 31.8	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 31.2
今回調査比	(6.8)	(▲ 13.6)	(22.2)	(33.4)	(▲ 12.4)

② 中央

「自社の業況DI値(前年同期比)」は▲12.4(前回調査比 3.3 ポイント下落)と2期ぶりに悪化した。業種別では、建設業が2.0(同8.5ポイント上昇)と改善し9期ぶりに「良い」超となった一方、製造業、卸・小売業、サービス業は悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲9.7(今回調査比 2.7ポイント上昇)と改善が見込まれている。業種別でみると、建設業と製造業で悪化が見込まれる一方、卸・小売業とサービス業は改善の見通しとなっている。

図表 14 中央業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

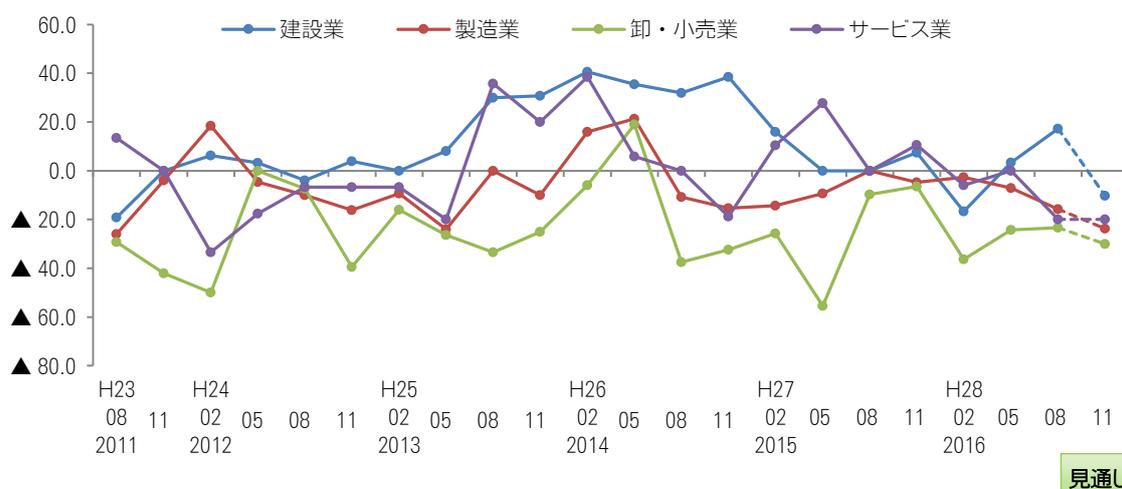
中央 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 27.08 (n=234)	▲ 8.1	▲ 16.3	6.1	▲ 6.2	▲ 13.6
H 27.11 (n=230)	▲ 11.3	▲ 12.5	▲ 16.0	▲ 4.8	▲ 13.3
H 28.02 (n=225)	▲ 13.8	▲ 5.5	▲ 4.7	▲ 23.3	▲ 17.6
H 28.05 (n=241)	▲ 9.1	▲ 6.5	▲ 8.9	▲ 10.6	▲ 10.1
H 28.08 (n=225)	▲ 12.4	2.0	▲ 9.8	▲ 25.4	▲ 12.2
前回調査比	(▲ 3.3)	(8.5)	(▲ 0.9)	(▲ 14.8)	(▲ 2.1)
先行き見通し	▲ 9.7	▲ 7.8	▲ 14.6	▲ 10.5	▲ 7.5
今回調査比	(2.7)	(▲ 9.8)	(▲ 4.8)	(14.9)	(4.7)

③ 県南

「自社の業況DI値(前年同期比)」は▲9.9(前回調査比 1.8ポイント下落)と小幅ながら2期ぶりに悪化した。業種別にみると、建設業が17.3(同13.9ポイント上昇)と2期連続で大幅に改善したほか、卸・小売業も小幅ながら2期連続で改善した。一方、製造業は2期連続、サービス業は2期ぶりに悪化した。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲21.4(今回調査比 11.5ポイント下落)と悪化が見込まれている。業種別では、サービス業は横ばいが見込まれるが、他の3業種は悪化の見通しとなっている。

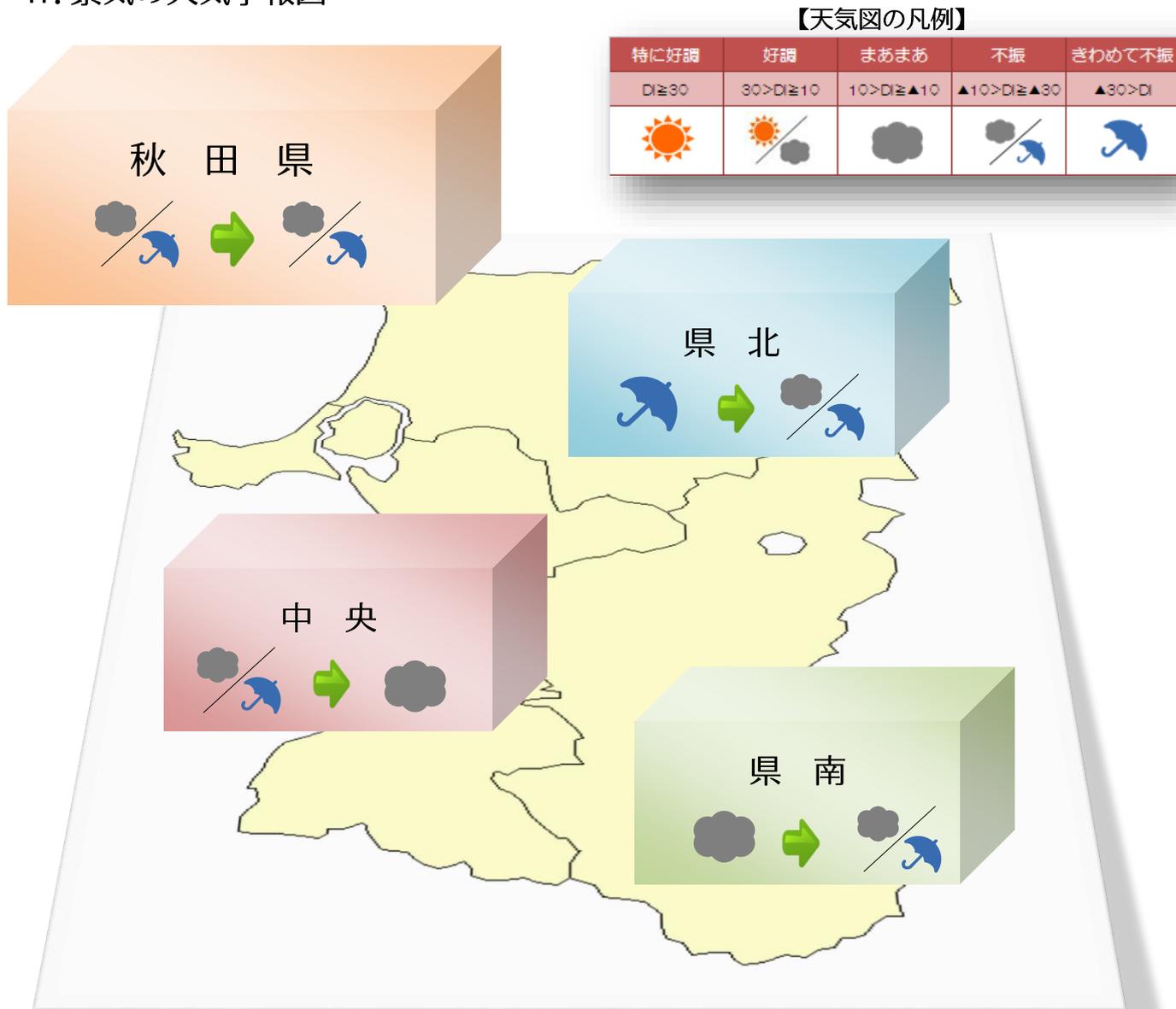
図表 15 県南業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

県南 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 27.8 (n=116)	▲2.6	0.0	0.0	▲9.7	0.0
H 27.11 (n=118)	0.0	7.4	▲4.8	▲6.4	10.6
H 28.02 (n=119)	▲16.0	▲16.7	▲2.6	▲36.3	▲5.9
H 28.05 (n=123)	▲8.1	3.4	▲7.1	▲24.2	0.0
H 28.08 (n=112)	▲9.9	17.3	▲15.8	▲23.3	▲20.0
前回調査比	(▲1.8)	(13.9)	(▲8.7)	(0.9)	(▲20.0)
先行き見通し	▲21.4	▲10.3	▲23.7	▲30.0	▲20.0
今回調査比	(▲11.5)	(▲27.6)	(▲7.9)	(▲6.7)	(0.0)

II. 景気の天気予報図



今期の概況

来期の見通し

	秋田県	県北	中央	県南
全業種				
建設				
製造				
卸・小売				
サービス				

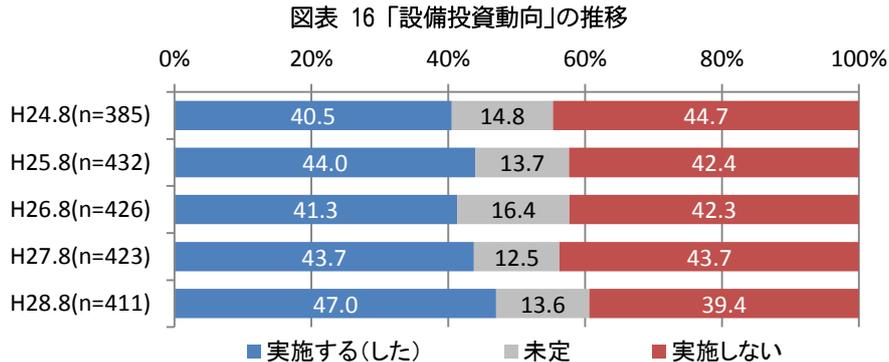


	秋田県	県北	中央	県南
全業種				
建設				
製造				
卸・小売				
サービス				

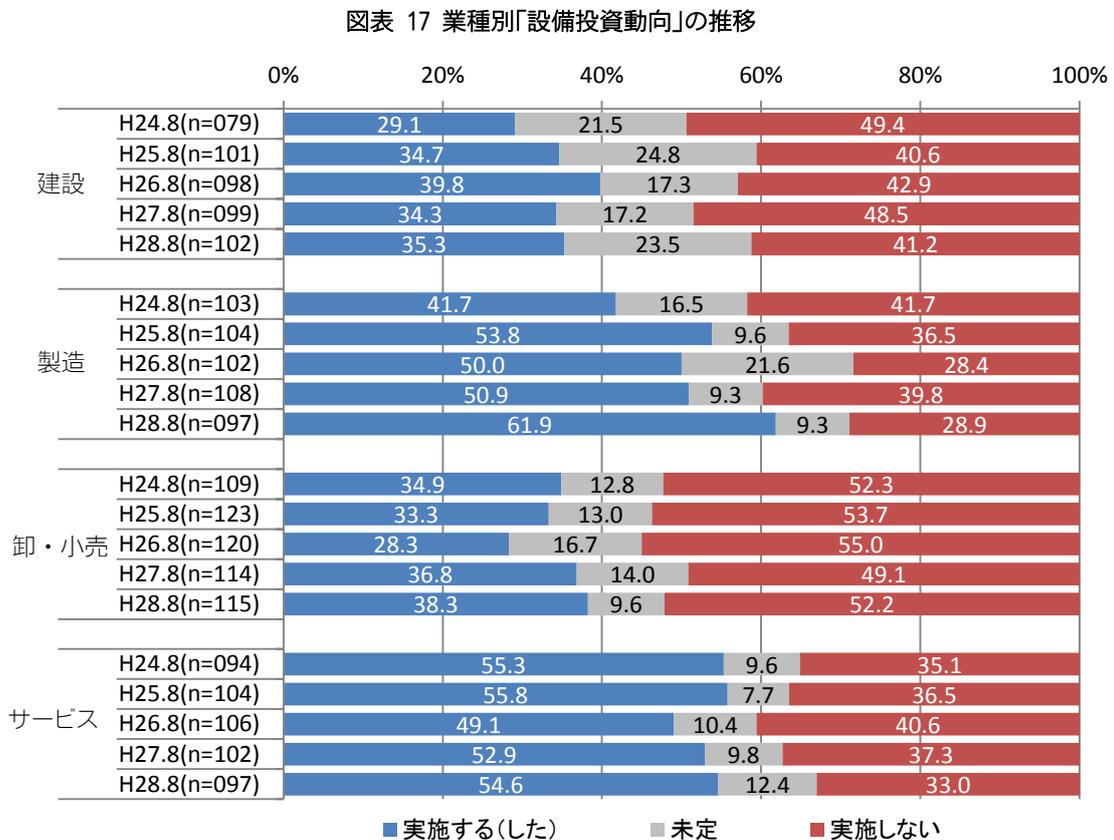
III. 特別調査

1. 設備投資動向

27年度中に設備投資を「実施する(した)」と回答した企業の割合は、47.0%(昨年度比 3.3 ポイント上昇)と、2年連続で上昇した。一方、「実施しない」と回答した企業の割合は 39.4%(同 4.3 ポイント減少)となった。

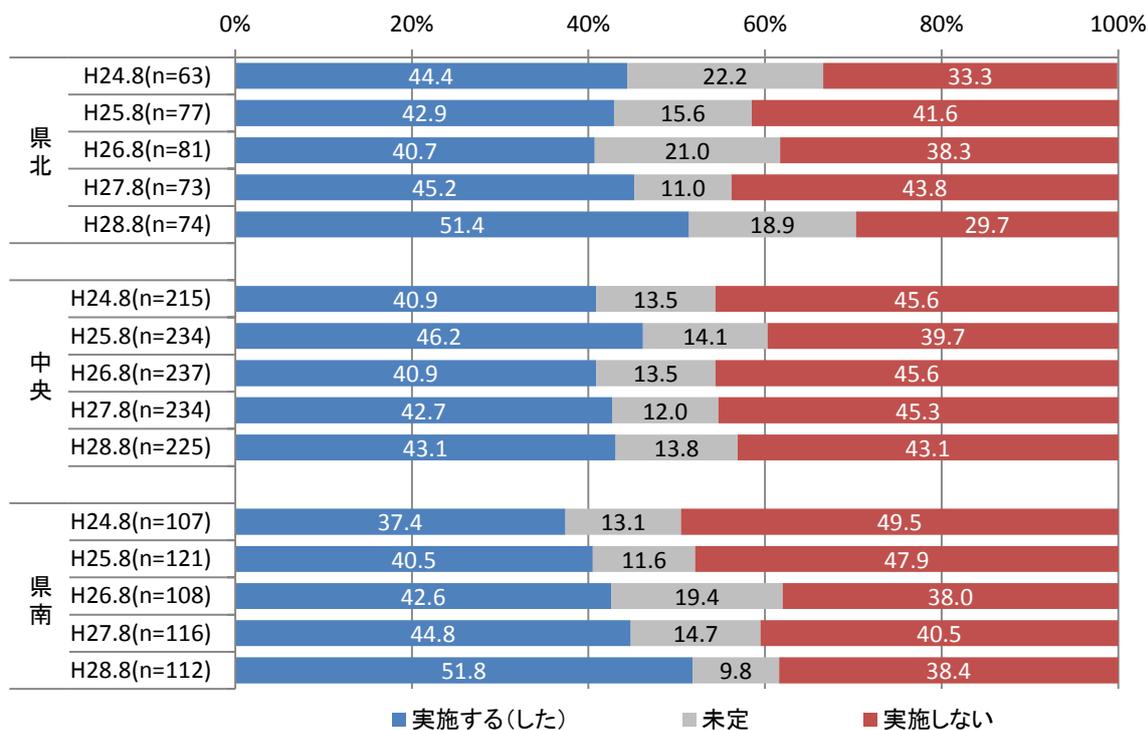


業種別にみると、設備投資を「実施する(した)」と回答した企業の割合は、すべての業種で上昇した。中でも製造業では 61.9%(同 11.0 ポイント上昇)と大きく上昇した。



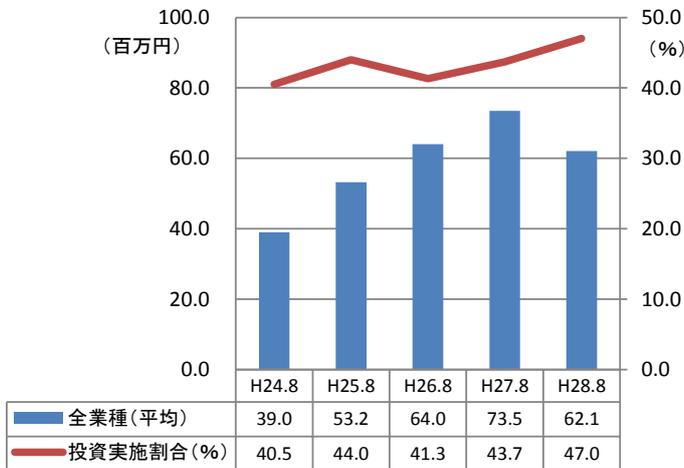
地域別にみると、県北は 51.4% (昨年度比 6.2 ポイント上昇)、中央は 43.1% (同 0.4 ポイント上昇)、県南は 51.8% (同 7.0 ポイント上昇) とすべての地域で上昇し、県南が最も高い割合となった。また、県南では 4 年連続での上昇となった。

図表 18 地域別「設備投資動向」の推移



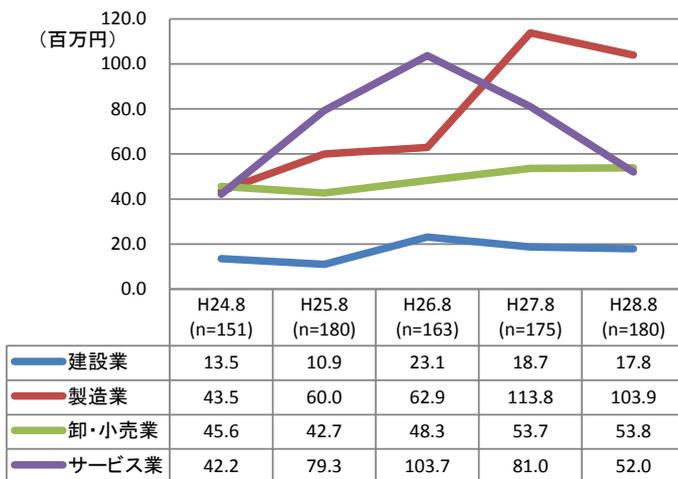
2. 設備投資金額

図表 19 全業種「設備投資金額と実施割合」の推移



設備投資を「実施する(した)」と回答した企業に投資額を尋ねたところ、1社あたり平均投資額(予定含む)は6,210万円、昨年度の調査時点と比べて1,140万円減少した。平成25年8月調査以降3期連続の上昇傾向から、4期ぶりに減少に転じた。

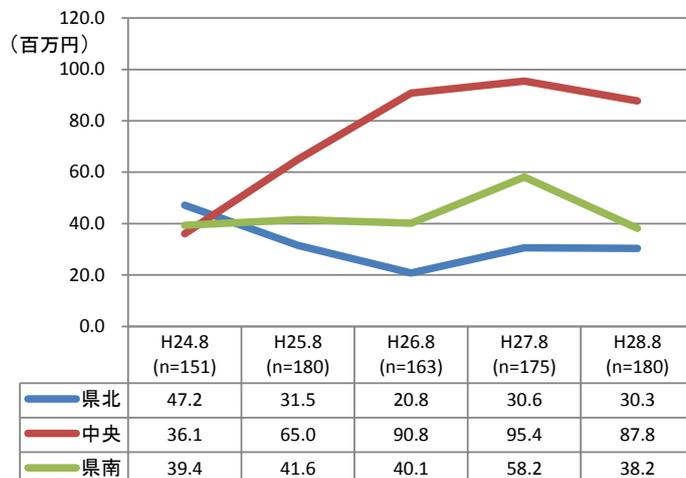
図表 20 業種別「設備投資金額」の推移



業種別にみると、卸・小売業では5,380万円(昨年度調査比10万円増加)と小幅ながら増加した。

一方、建設業では1,780万円(同90万円減少)、製造業では1億390万円(同990万円減少)、サービス業では5,200万円(同2,900万円減少)と、卸・小売業を除く3業種ではいずれも減少した。

図表 21 地域別「設備投資金額」の推移



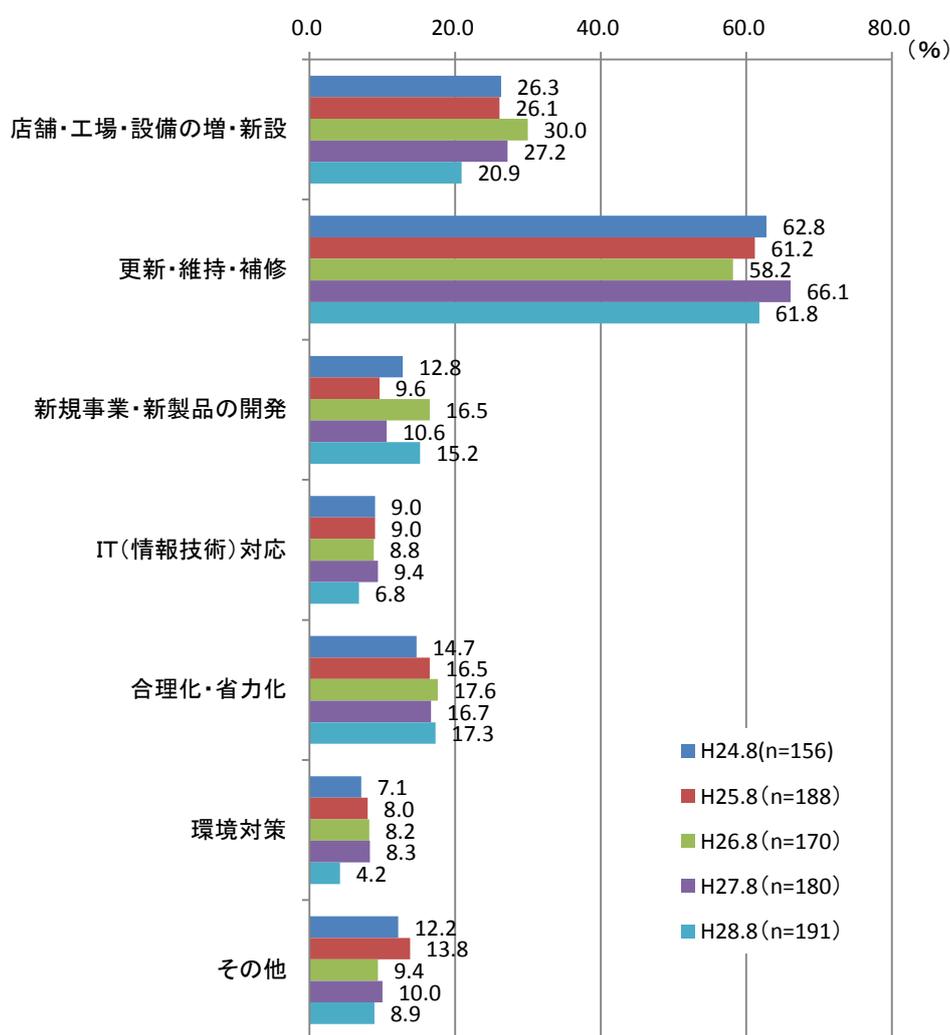
地域別にみると、すべての地域で減少となった。県北では3,030万円(昨年度調査比30万円減少)と2期ぶり、中央では3,060万円(同760万円減少)と4期ぶり、県南では3,820万円(同2,000万円減少)と2期ぶりに、それぞれ減少となった。

3. 設備投資目的

設備投資の主な目的について尋ねたところ(複数回答)、回答した企業の割合が最も高かったのは「更新・維持・補修」の61.8%で、次いで「店舗・工場・設備の増・新設」が20.9%で続き、以下は「合理化・省力化」(17.3%)、「新規事業・新製品の開発」(15.2%)、「IT(情報技術)対応」(6.8%)、「環境対策」(4.2%)の順となり、これまでの調査結果と同様の傾向がみられた。

投資目的の割合をみると、「新規事業・新製品の開発」と「合理化・省力化」の割合が上昇した一方、「更新・維持・補修」「店舗・工場・設備の増・新設」「IT(情報技術)対応」「環境対策」の割合が低下した。

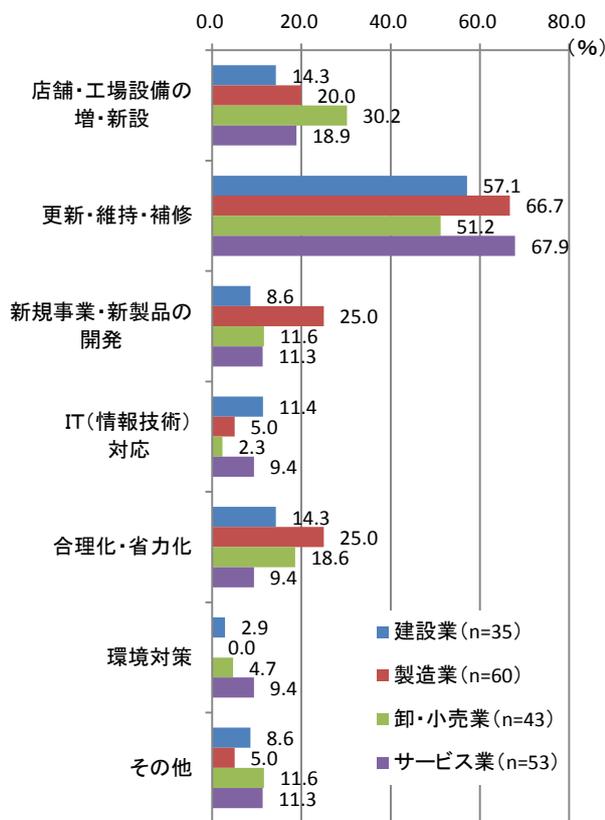
図表 22 「設備投資の目的」の推移(複数回答)



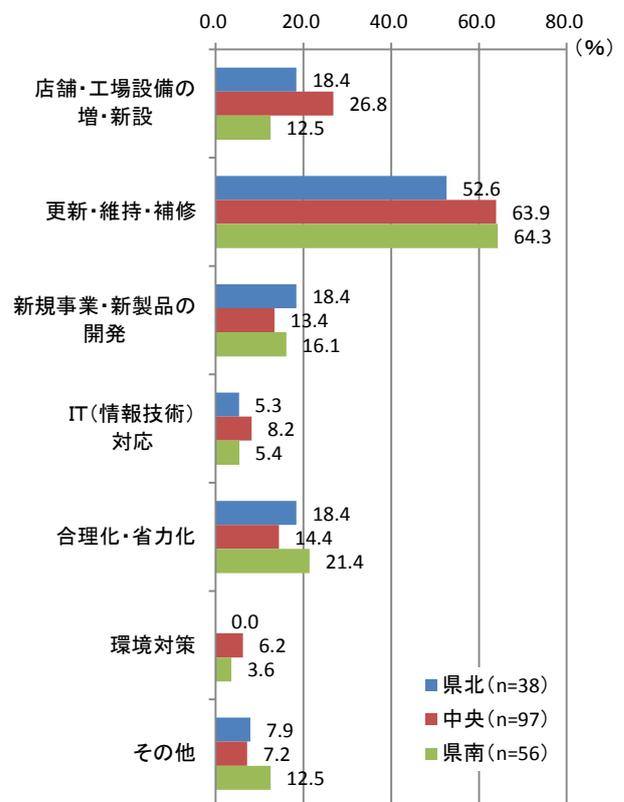
業種別にみると、サービス業と製造業の6割台を始めとして、すべての業種で「更新・維持・補修」と回答した企業の割合が最も高くなっている。これに続く設備投資の目的は、建設業では、「店舗・工場設備の増・新設」と「合理化・省力化」、製造業では「新規事業・新製品の開発」と「合理化・省力化」、卸・小売業とサービス業では「店舗・工場設備の増・新設」となり、業種によって違いがみられた。

地域別にみても、すべての地域で「更新・維持・補修」と回答した企業の割合が最も高くなっている。他の項目では、「店舗・工場設備の増・新設」の割合が中央で他の地域に比べて高くなっている。

図表 23 業種別「設備投資の目的」の推移(複数回答)



図表 24 地域別「設備投資の目的」の推移(複数回答)



<参考資料Ⅰ：業種別・地域別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	27	27	27	26	107
中央	81	68	97	96	342
県南	41	63	50	35	189
合計	149	158	174	157	638

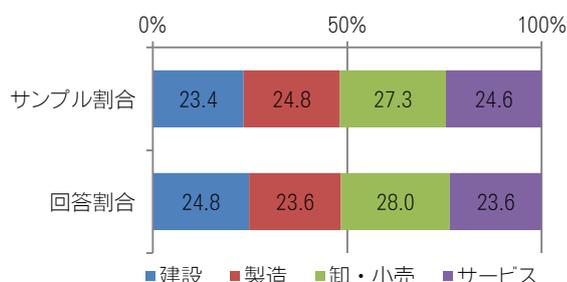
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	22	18	18	16	74
中央	51	41	67	66	225
県南	29	38	30	15	112
合計	102	97	115	97	411

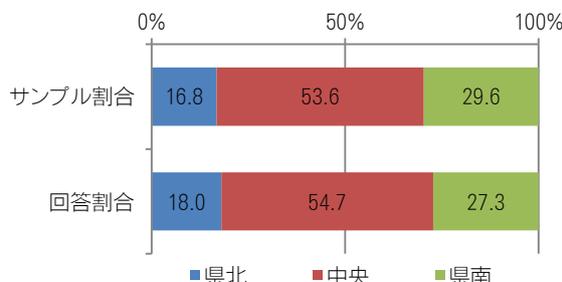
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	81.5	66.7	66.7	61.5	69.2
中央	63.0	60.3	69.1	68.8	65.8
県南	70.7	60.3	60.0	42.9	59.3
合計	68.5	61.4	66.1	61.8	64.4

(業種別：%)



(地域別：%)



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した。

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査(一部FAXを利用)。

● 調査期間

平成28年8月1日(月)～15日(月)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
県北	大館市、能代市、北秋田市、鹿角市、三種町、八峰町、小坂町、藤里町、上小阿仁村
中央	秋田市、由利本荘市、潟上市、男鹿市、にかほ市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村
県南	横手市、大仙市、湯沢市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採っている。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている。

項目	選択肢（択一方式）		
自社の業況(共通項目)	1. 良い	2. さほど変わらない	3. 悪い
業界の業況(共通項目)	1. 良い	2. さほど変わらない	3. 悪い
売上高(建設業を除く)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
完成工事高(建設業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
営業利益(共通項目)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
人員や人手(共通項目)	1. 足りない	2. ちょうどよい	3. 余っている
資金繰り(共通項目)	1. 楽になった	2. さほど変わらない	3. 厳しい
原材料等の仕入価格(製造業のみ)	1. 下がった	2. さほど変わらない	3. 上がった
製(商)品の仕入価格(卸・小売業のみ)	1. 下がった	2. さほど変わらない	3. 上がった
在庫状況(製造業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
手持工事高(建設業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った

(注)各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採っている。

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれD I値を算出する。D I値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、算出方法は次の通り。

例)自社の業況D I値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況D I値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向(良くなっているか、悪くなっているか)についても分かる。

ちなみに、他のD I値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと)を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する。

<お知らせ>

F S N会員専用ホームページ(<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>)にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ(<http://www.f-ric.co.jp/>)「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所 地域コンサルティンググループ 後藤(秋田本部)／佐藤(秋田本部)

・秋田本部

〒010-0001 秋田県秋田市中通 3-1-41 北都銀行本店 6F

TEL : 018-837-1727 Fax : 023-834-5508

・山形本社

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-21 荘銀山形ビル 8F

TEL : 023-626-9017 Fax : 023-626-9038 E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp

URL : <http://www.f-ric.co.jp>